

厨房見聞録

くらし食堂のこだわり「もち豚」!!

もち豚とは、他の豚より少しピンク色をしており、肉質がもっちりとしてキメの細かい、良質の豚肉を指す名称のことです。また、お肉自体のお値段も一般的な豚肉に比べ少し高価になっています。くらし食堂では、九州もち豚を決まったお肉屋さんから仕入れ、お手頃価格でご提供しております!! たび編集スタッフがくらし食堂にお邪魔し、シェフおすすめのもち豚料理を頂いてきました!!



編集長

僕が食べたカツ定食は、もち豚の美味しさはもちろんです。包む衣のソフトさと歯ざわりが、中身のもち豚とうまく調和し、出来立ての暖かく上品なカツ定食に仕上がっているのです。もち豚を使った生姜焼き定食同様ボリューム感も抜群で、600円はかなり経済的。料理経験40年と豊富な店長もホンワカなもち豚キャラです。



とんかつ定食 ¥600

編集スタッフ

今回は、もち豚の生姜焼き定食をいただきました。まず、ボリュームですが文句なしで、野菜や小鉢等もついていました。また、お肉にこだわっていることがよくわかるくらいにとっても肉厚でタレもたっぷりとかかっています。また、ご飯も盛り放題ということもあり、空腹も一気に満たすことができました。



生姜焼き定食 ¥600

くらし食堂では、雨の日に日替わり定食を頼むと小鉢がサービスされる雨の日サービスやごはん盛り放題、寒い季節には粕汁や鍋料理などをご用意しております。ぜひくらし食堂にお立ち寄りください。

鶴見橋くらし食堂

【営業時間】ランチ: 11:00~15:00

晩 酌: 17:00~21:00

【定休日】日曜・祝日

【住所】大阪市西成区鶴見橋2-12-30

【連絡先】06-6562-1222



発行日 2013年2月1日
 創刊日 2007年1月1日
 発行 株式会社ナイス
 発行人 代表取締役 富田一幸
 印刷 菊前山企広
 住所 大阪市西成区長橋3-6-33
 電話 06-6563-1156
 E-mail info@nice.ne.jp
 H P http://www.nice.ne.jp/

大阪・金魚の艶
 大丸心斎橋で催されたアートアクアリウム展です。

友織者たち3 おっちゃんの忠告を聞きながら



り やんう
李 洋佑 氏

李君は釜ヶ崎の「西成労働福祉センター」という前線で働いています。現場の好きな李君は、つまりは人が好きなのだと思えます。組織に勤めその限界に苦労しながらも、人間に密度のあるかわりを持つと李君は、昔と変わらずやっぱり素敵です。私たちのいう友織者とは、誰のために仕事をするのかと自問する人たちのこと。李君を紹介します。

インタビュー：佐々木敏明 / 記録：田岡秀朋

10年前といま

佐々木（以下、佐）：ホームレス巡回相談員の同期として、一緒に働いてから10年以上が経つ。個別ケースだけでなく、居宅やホームレス自立支援センターにつないでも、再野宿するおっちゃんたちが多いとかよく議論し調査したこともあるね。いま、野宿経験者や日雇労働者と呼ばれる人々からうける印象は大きく変わった？

李：最近「手帳を持たない障がい者とかボーダー」とよばれる人々が野宿経験者

や日雇労働者に増えている」と聞くが、個人的にはそう思わない。巡回相談していたときも今も、生きにくさや働きにくさを抱えた人々とよく出会っていた。個人の問題ではなく景気が悪くなり、吸収できていた個性を企業なり社会が受け入れられなくなり、可視化されたことが一番大きな問題だと思う。これはおっちゃんから聞いた話だが、知的障がいかな？と思う仲間でも、建設現場でひたすら一生懸命に穴を掘れば働けていけた時代もあった。

佐：生活保護の適用で、野宿者傾向に変化

があったか？10年くらい前は野宿者があふれていた。再開発以前の大阪駅周辺なども野宿者はあたりまえの風景だった。厚生労働省のホームレス概数調査では、2003年は25,000人だったのが、いまはかなり少ない。

李：生活保護の適用要件緩和は派遣村に象徴される反貧困グループの運動の成果だと思う。稼働年齢層とされるその他世帯が増えすぎたという声もあるが、前よりは生活保護がセーフティーネットとして機能しているとも言える。夜回りで野宿者におにぎりを配ることもあるが、命の危険や緊急的な支援の必要性を感じる割合は減った。生活保護が機能することで、言葉は悪いが、野宿状態から居宅が第一といった時代ではなくなりつつある。なんらかの理由で居宅を望まない野宿者との関わり方やその後のくらしづくりが重要になっている。

佐：巡回の頃から居宅を望まない野宿者によく出会った。生活保護ではなく野宿生活を自ら選択し、「いまは大丈夫。しんどくなったら、相談行くわ」というおっちゃんやね。野宿者=弱者というステロではなく、野宿という自立もある。

李：とはいいいながらもその判断は本当に正しいの？という思いがある。野宿仲間が居宅を受けて、公園に顔を出さなくなった。居宅保護とか言いながら、どっかに連れていかれたんちゃうか？と聞かれたこともある。だから丁寧に生活保護やいろんな制度のことを説明し、

おっちゃんたちには正しい情報をもって判断してもらいたい。その上での選択であれば、その生き方を尊重したい。10年前の巡回ではあまり意識しなかったが、今はそう思える。



解のない問題

佐：10年前の李君は本当に若かった。巡回相談の待遇は生活保護並みだったけど、こんな若い優秀な人材がいるんだと感心していたし、社会福祉の未開の分野に挑戦している充実感と幸せな気持ちで働いていたようにみえた。

李：大学卒業後すぐに巡回相談で働いたが、正直、佐々木さんの値打ちがあまり理解できていなかった。マニュアル無視？というのは悪いが、世間話を織り交ぜて、通常は30分で終わる相談を60分ぐらいかけて話す姿勢は疑問だった。支援に必要な情報や傾聴姿勢などマニュアルに書いてあることを的確にこなし、所定時間で多く巡回するべきだと思っていた。でも、いまは相談だけではなく、雑談を通じて趣味とかいろんな面を知るの大切さがわかって



きた。

佐：解のない問題というか、支援の限界というのか、量にあげたり必要な制度につなぐだけが本当にその人が望んでいることなのか。それは相談ではなく、いろんな会話や対話のなかから気づくもの。決まった解がないのであれば、「いま」のおっちゃんたちの心根を聞くしかない。でも僕に人の全人生を引き受けるというような傲慢さは無い。

李：当時は大学で社会福祉を学んでいたの、手法を知らずに支援はできないと理屈や理論が優先していたのかも。知識は必要だけど、現場で一緒に向き合うことの大切さをいま実感している。

西成労働福祉センター

佐：西成労働福祉センターの勤務内容を具体的に紹介してください。

李：あいりん総合センターという建物の中に、あいりん職安や市営住宅などとともに、西成労働福祉センターが入っている。西成労働福祉センターは、無料職業紹介を担当する紹介課と、労働相談や労災相談、福利厚生事業を担当する労働福祉課がある。職業紹介部門で

の勤務だが、ハローワークがあるなら、職業紹介も任せたら？という意見もあるだろう。もし、ハローワークが職業紹介を実施すれば、ブラック企業を指導し改善がない場合は求人として取り扱わないので、一見すると望ましい姿になる可能性はある。でも、現実はいろんな企業があるわけで、雇用保険に加入しないままの業者や労働条件を守らない業者などの不法行為がブラックボックス化すると思う。業者の違法行為は許さないが、関わりは継続するという姿勢のセンターが職業紹介を担うことで、グレーゾーンが生れ、企業の生の情報を集めたり、企業に雇用者責任を伝え、少しずつ労働環境が改善されてきたと思う。もちろん、指導権限を持つ職安との連携は、地域の雇用改善に取り組むためにこれからより一層重要になってくると思っている。

佐：利用する人は変化したか？

李：女性が増えたわけでもないし、それほど大きな変化はないと思う。いろんな事情があるとはいえ、簡単に言えばセンターを利用する人は「働きたい人」。ただ、誤った認識があって、「センターに行けば日払いの仕事がある」と聞かされ、愛知県から歩いてセンターに仕事探しに来た人もいたし、70歳でも仕事があると思えば来所する人はいる。でも、建設労働が中心の職業紹介だから、年をとって体力的に衰えていたり、若くても経験や専門技術がないとなかなか仕事はみつからない。一方、生活保護の増加とは無関係ではないが、最

近は土建屋さんも人手不足に悩んでいる。

おっちゃんたちの応援

田岡（以下、田）：「センター」以前NPOで勤務していた。その時と比べてやりがいは？

李：巡回相談が1年、次に「NPO百倍ネット」で3年、センターで6年働いているが、今の仕事にもどかしさを感じることもある。センターの役割や使命に共感しやりがいはあるが、巡回相談からNPOに転職したのは、出会った人に密度の濃い支援をしたいと思ったから。センターではNPOのような支援はできない。

田：では、なぜセンターに？

李：今でも密度の濃い支援をしたいと思うことはある。でも、NPOでは（自分自身の）結婚、子育てという将来を考えるとがなかなか難しい。センターは外郭団体でお役所的な側面もあって、もう一度NPOに勤めなおそうと思うこともあったが、その度にNPOで働いていた時に僕が支援していたおっちゃんたちに相談すると、おっちゃん



たちが「やめたらあかん」と応援をしてくれる。そのように転職に悩む僕の背中を押してくれた。だから今の僕がある。

田：特区構想ではセンターの建て替え話も出ている。

李：数十億円をかけて、今のセンターをそのまま耐震補強するというような話が簡単にとおる状況ではないと思う。またセンターを萩之茶屋小学校に移転するとか、総合生活相談センターを附設するとか、箱ものや制度の話だけでなく、日雇労働や寄せ場という機能について、もっと意見交換が必要だと思う。単身高齢者が多く住み、生活保護率が高くなったが、「福祉」というだけでなく、「労働」という側面からもしっかりとこの地域を捉えたい。

おわりに

李君も同僚の田岡君同様ロスゼネ世代だ。私の息子世代でもある。変な言い方だが、私は密かに彼ら世代に親近感と希望を持ちます。メディアで活躍する魅力的な研究者らにもこの世代の青年たちが多い。そそぐ視点に柔らかい眼差しを感じるからです。

「苦痛と悲しみがなければ語れない」とは旧ユーゴの現代史をテーマにした映画『アンダーグラウンド』で語られるセリフですが、苦痛と悲しみに裏打ちされた人ほど優しくなる。李君はそんな人だ。論理的だが柔軟な李君にタジタジしました。（佐々木）



第16回

文楽 1

かなでほんちゅうしんぐら
 — 仮名手本忠臣蔵から —



舞台上手に立つ黒子の甲高く、しかし抑揚のない声が響きます。「トザイ、トザイ。ただいまの山崎街道出合いの段。語りまする太夫、竹本〇〇太夫……」。

人形浄瑠璃（にんぎょうじょうり＝文楽）の序幕は、黒子その日の演目や演者の紹介をし、最後に再び「トザイ、トザイ」と口上を結んで楽屋に戻っていくところから始まります。感情がなく変に一本調子な声は、これから始まる魂を持たない人形に、感情を注ぎ込むための儀式のように聞こえるのです。

江戸時代の初め、それまでにあった人形芝居と三味線である音曲の浄瑠璃を合体させたものが人形浄瑠璃でした。人形浄瑠璃は、道頓堀に「竹本座」を開いた浄瑠璃太夫である竹本義太夫と、座付き（専属）作家、つまりシナリオライターである近松門左衛門らが文楽の開祖だといわれています。その後「文楽座」と称した小屋のみで上演されたことで文楽と呼ばれるようになっていきます。多くの歌舞伎は人形浄瑠璃のシナリオを定本にしているようで、浄瑠璃は歌舞伎以上に古い伝統芸能といえるのです。

現在文楽を定期的上演する場は、日本橋にある「国立文楽劇場」ですが、84年までは大坂道頓堀にあり、ひと頃この劇場は「朝

日座」と呼ばれていたことを覚えています。ところで昨年11月、日ごろ見ることが難しい通し狂言『仮名手本忠臣蔵』を観劇してきました。今回は『仮名手本忠臣蔵』を中心に、文楽を話題にしたいと思います。

人形浄瑠璃や歌舞伎での出し物は、その作品の全てを演目とするのではなく、一段目や二段目などを抜粋で上演するのが普通です。例えば『仮名手本忠臣蔵』であれば、有名な五段目の「山崎街道出合いの段」や、七段目『祇園一力茶屋の段』などが比較的よく上演されるプログラムです。読者の中に観劇された方もいると思います。

普段とは違い、通し狂言は一つの作品を一日かけて上演することで、演者や観客の体力、コスト面で上演の難しさがありそうです。今回も8年ぶりの上演といえます。

『仮名手本忠臣蔵』の第1部は、大序（1段目）から6段目まで。第2部は7段目から大詰（10段目）までで、上演時間は午前10時半に開演し、午後9時過ぎに閉演でした。あいだに30分ほどの昼食時間と、10時間余を、演者も観客も耐久力を試されるマラソンのように、このプログラムにつきあうのです。

文楽や人形浄瑠璃というと、古びた芸能

のように考えたり、言葉が難しいと敬遠して、おそらく観客数は往時と比べて激減しているのかもしれませんが、ここでは浄瑠璃の太夫、三味線、人形遣いの三業（さんぎょう）で成り立つ、緊密な芸の協働が求められる作業で、つまり三業相互の息遣い、足並み、目配り、頃合いをはかりながら、伝統としての自負感と、より高い目的意識が新しい知恵や技術の取り込みを促しているのです。

私は、これらの高度な技術の鍛錬を通し、その上で、日本人の心情や普遍化した生活スタイルを、人形を使って表現することに、いつも新鮮さを感じます。そして、これらの文化がなぜ、私たちの現代に浸透していないのかを残念に思います。

日本の保守政治家たちが「日本の伝統に帰ろう」とか、「美しい日本へ」などと空疎なフレーズを叫び、市内の高校事件で露呈した体育偏重な教育を見るとき、体育会系の伝統があいかわらず強いことで、文化の薄さ底の浅さを見せつけられます。今後ますます、私たちの連綿と続く歴史や文化について、知る必要があると考えます。この問題では、橋下大阪市長が決断した入試の中止とか体育科棚上げ案などは、日本の文化性に一石を投じ、興味深く新鮮な衝撃がありました。暴力支配による従属させる習慣に風穴を開ける契機になればいいと思います。

ところで、元禄年間に起きた「赤穂事件」が『仮名手本忠臣蔵』の背景にはなっていますが、物語の時代設定は室町時代の足利幕府なのです。例えば事件の首謀者である赤穂藩主浅野内匠頭の名を塩谷判官、妻瑤泉院は顔世御前（かおよごぜん）、家老

大石内蔵助は大星由良介、敵役吉良上野介は高師直（こうのもろなお）、そしておなじみ浪士たちの名前もすべて変えてあります。

忠臣蔵は江戸幕藩体制を揺るがす復讐事件であり、幕府糾弾の兆しもあったため、幕府側の赤穂事件に関する表現活動を禁じていた結果であったと思います。

この通し狂言を見ていくつかの発見がありました。私が想像していた忠臣蔵とは、映画からの情報がほとんどでした。小中学生であった1950年代の頃、ほとんど毎年各映画会社が年末に、忠臣蔵あるいは赤穂浪士を製作していました。年中見ているものだから、必然的にストーリーも空で覚えてしまうのです。しかし60年代に入りTVの興隆と同時に映画の後退が始まり、忠臣蔵の映画も少なくなっていきました。

（次号に続きます）



12年暮れの「仮名手本忠臣蔵」チラシ

「あそパー」ってなに？

地域みんなで公園づくり

「公園で、あそぼう、つくろう、つなごう」をテーマに、西成区内の公園を舞台に、子どもも大人も一緒に楽しめるあそび場づくりを行っています。たとえば、季節に合わせて夏には水遊びまつりを行ったり、いろんな世代がいっしょになってこま回しやけん玉などで盛り上がりたり。他にも、フリマやかえっこバザール、アートワークショップなど、いろんな企画を組み合わせながら、「だれもが集うことのできる公園づくり」を目指しています。



あそパー号で出発！



あそぼパーク☆プロジェクト



竹ぼっくりワークショップ

あそぼパーク☆プロジェクト、通称あそパーは、地域の取り組みとして、わが町にしなり子育てネットが声掛け役となって、西成区内の様々な公園で実施しています。地域住民をはじめ、保育所、学校、子育てサークルや、関連施設などともつながり、「いつでもどこでも、みんなで子育て」を合言葉にいろんなアイデアを持ち寄りながら活動を続けています。

なぜ？あそパー

虐待やいじめ、貧困など子どもたちを取り巻く課題は様々です。既存の制度だけでなく、地域の子育て・子育て支援も大切です。子どもたちが、近所のおにいさんや、ちょっと世話好きなおばさん、知恵袋的なおばあさんなどの出会いも、子育て支援のきっかけになります。あそパーは、子どもと地域をつなげる取り組みとして、小さな活動をこつこつと積み重ねています。



みんなできっこバザール

あそパー開催！今後の予定

2月24日(日) 11時から天下茶屋公園であそパーを開催します！ミニミニフリマや、乳幼児のあそびコーナー、かえっこバザールに、焼きいもなどを楽しめる炭焼き場まで登場します。いろんな遊びを通じて、心も体もあたたまりながら、子どもも大人も、だれでも参加できるあそパーに来てみませんか！

天下茶屋公園:岸里東1丁目16	日時
区役所 岸里 松虫通 海本線 R205	2月24日(日) 11時から15時
場所	天下茶屋北公園
主催	にしなり☆あそぼパークプロジェクト わが町にしなり子育てネット

微笑み
冷たい風が吹く2月。
寒いなあ、寒いなあ、とつぶやきながら散歩をしていると、「オイ！」と、誰かが私を呼んだ。振り向いたらバグ犬のボン君だった。友だちボン君が「2月は節分。豆まきしよう」と誘ってくれた。鬼はどっちがする？ってたずねると、私に指さすボン君。私が「嫌だあゝ!!」って怒ると、「ほらほら鬼になったあゝ」と笑って逃げていったボン君。私はあつげにとられちゃったけど、いつしか鬼の顔から福の顔して笑ってた。鬼は外〜！福は内〜！の豆まきは、1年幸せでいようねというおまじない。ブンブン怒っているよりも、ニコニコ笑っている方が福は内〜、なんだよねワンワン!!

M
A



太陽の墓場



監督：大島 渚
脚本：大島 渚
石堂 淑朗
撮影：川又 昂
キャスト：津川 雅彦
炎 加世子
佐々木 功
製作：60年松竹作品
カラー作品/88min
脚統：松竹株式会社

この草稿途中、突然に大島渚監督の訃報を聞いた。まずは当時僕らの創造意欲を大いにたきつけてくれた先輩大島監督に感謝しよう。表現（フィルム）を通し、常に大きなものと対峙する姿勢や新しいものを造る姿勢に、僕は共感と支持を感じていた。

敗戦後、さまざまな負債を引き受けた日本だが、沖縄米軍基地や従軍慰安婦、広島そして釜ヶ崎など、今も戦後を刻印するものが多い。「そんな日本は変わるのか、どうなるのか」という討論や糾弾のような作品が大島に見られた。反面『青春残酷物語』（60年）、『ユンボギの日記』（65年）、『絞死刑』（68年）、『少年』（69年/なび12年4月号参考）などはラディカルで、しかし清冽な印象を残した作品も大好きだった。

『太陽の墓場』は、戦後経済成長が高まっていく直前の、制度や仕組みにも守られず、ひたすら強い者は弱い者を叩き、弱いものは更なる弱い者たちを叩いて、自らを自衛する男女の群集劇として描いた。そこでは末端を支配する社会の闇を照射したが、もともと大島の作品が一般の観客に興味を持たれていたとは思えない。彼は観客が望む予定調和なシナリオを裏切りながら、フィルムを武器に見えざる敵を相手に暴れた。ときに理解できず思考停止に陥り、ときに

は希望をなくさせた作品でもあった。

僕らが50年代の少年時代、血を売りその日の稼ぎにする連中がいて、連日売血問題が新聞を賑わせていた。胡散臭い男たちが港湾労働者らをつかまえ、血を売れとしてこく迫る木津川でのシーン。萩之茶屋を通過する南海電車の高架下に店を持つ寄せ屋（ごみ収集業）に、失業者がかき集めてきたゴミのいろいろをピンハネして買い取るシーン。自らの生存を抹殺し、戸籍の売買屋に自分の名前や経歴を売り渡す男たち。金のためなら死体の処置さえ請け負う男。そして在日や障がい者たち。これらの日常に、女を食物にして荒稼ぎをするチンピラ悪連隊たちの内部抗争がヒートする。

この映画では、刹那的に生きざるを得ない男女が生存をかけて日常を闘う。当時の僕もまたそうであったように、見る者はまるで絵空事のように見ていたかもしれない。しかしこの町は現実であり、今もなお他所と隔絶して存在する。この町は小便臭く行き倒れの風景を担いながら、他者の耳目にも無視され、特区というような陳腐な言葉で風化させられていく。そこはまるで沖縄と同じだ。

大島はこの映画で、一見チマチマ矮小化した人間と風景を持つ大阪の某所を描くことで、僕らの住む日本という国の根っこを露呈させてしまったのではなかったか。『太陽の墓場』は、人間を馬車馬か家畜牛のごとく、利潤の対象としてしか考えない搾取者たちへの叛乱と、この町から主人公たちを絶望から遁走させるエンディングで終る。現実の群集を、日本という国に見たてて描きながら。

hidarimaki

●おわびと訂正

本年1月号この逸編「裸の島」の10ページに文章の欠落がありました。
【第1ブロック最後】
吸われていく。母が島に帰還し、再び水桶を【第2ブロック写真の下段】
が終ればまた船で隣島まで水の補給。
上記第1と第2ブロックの間に
「抱えて山道を登り父の作業に合流する。作業」が入ります。著者と読者におわび申し上げます。申しわけありませんでした。

れた「互助」が一番フィットして
る気がします。いわば、「互助の
解放運動（社会運動）」にはセオ
リーもないし、経験も少ないので
困難な運動になりますが、若い人
が、きっとやってくれると思いま
すし、やって欲しいと願っていま
すし、ボクも微力ですが一緒に
やっていこうと思っています。』

地域の新年会でのボクの挨拶
だ。シーソーと水平線という比喩
が適格かどうかは読者に任せる
が、通常労働市場と中間労働市場、
通常企業と社会的企業、はたまた
正規と非正規、社会保障の受け手
と担い手、部落の中の困難を抱え
る人と豊かな人等々の「互助」を
意味しているつもりだ。同時に、
「水平の社会」という目標を永遠

の彼方の「到達すべき社会」とするの
ではなく、現実的で、かつ進行形で、シー
ソーのように揺れ動くかもしれない緊張感のある社会像として描きたいと
思ったからである。ボクも還暦を迎え
て、運動の役職は退いたし、(株)ナイス
の代表も近いうち退くが、「互助の社会
運動」の種を蒔く仕事はやり続けたい
と思う。仕事と報酬を半減させ若い人
に譲り、車も酒も美食も控え、老後の
医療費の負担増や年金受給額の減額に
備えることを新年の抱負にしたいと思
う。酒を断つと言いきれないところに
意志の軟弱さが垣間見えるのだが…。

(株)ナイス代表取締役 富田一幸

『年末に長女が産んでボクも
おじいちゃんになりました。30
年前、脳性マヒの障がい者として
生まれた長女が、母親になる日が
来るとははその頃想像もできま
せんでしたし、率直に言って、前
途は暗澹たるものではないかと不
安でした。それが、地域の学校に
通い出し、地域で働き始め、恋を
し、嫁に行き、とうとう母になり
ました。同じ頃、西成の部落解放
運動が蒔いた福祉の種は、次第に
実り、花を咲かせ、長女を母にし
てくれました。西成に福祉が実っ
た30年でした。そんな地域に感謝
し、その一員であったことを誇り
に思います。さて、長女が今の
ボクと同じ還暦を迎え、ボクはこ
の世になくなるこれからからの

30年、西成の解放運動は、この地域
にどんな種を蒔くのでしょうか。部落
解放同盟の前身は水平社ですが、まる
でシーソーのように上下に傾いた社会
を、水平線のようにしていこうとの想
いが込められていました。以来、水平
線の下の人々を水平線に押し上げてい
く解放運動をやってきて、成果を挙げ
てきましたが、まだ目的は達成してい
ません。これからは、水平線の上の人々
が水平線まで押し下がってくる力で水
平線の下の人々を押し上げていく、そ
んな解放運動、社会運動が求められて
いると思います。社会貢献とか、協働
とか、分かち合いとか、互助とか言わ
れる概念ですが、ボクは、使いこなさ



互助の種を蒔く

